

自己評価報告書

平成23年 5月 1日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2012

課題番号：20402053

研究課題名（和文） 大学教育における「学び」の空間モデル構築に関する研究

研究課題名（英文） Study of developing learning space model in college

研究代表者

溝上 智恵子 (MIZOU CHIEKO)

筑波大学・大学院図書館情報メディア研究科・教授

研究者番号：40283030

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：社会科学B・教育学

キーワード：学習支援、図書館情報学、高等教育、大学図書館、ラーニング・コモンズ

1. 研究計画の概要

本研究は、大学教育の実質化を進展させるための学習支援サービス・モデルの構築を行う研究である。具体的には、大学生の主体的学習を促進させる実空間「ラーニング・コモンズ」(Learning Commons)のあるべき姿と運営方法について具体案を提示することであり、下記の3点をめざしている。

- (1)多様な形態で展開しつつある海外のラーニング・コモンズの現状を明らかにする。ラーニング・コモンズの施設・設備構成や、そこで学ぶ学生の学習活動実態についても評価を含めて検討する。
- (2)ラーニング・コモンズを支えるスタッフの教育訓練システムを明らかにする。機器の提供だけでは学習支援サービスは実現しない。十全なサービスを提供するスタッフが存在して初めて機能する。この点を詳細に検討して、日本へのインプリケーションを提示する。
- (3)大衆化時代の学部教育における学習支援サービス機能の高度化を探ることである。

現在、ラーニング・コモンズの導入・整備は欧米を中心に急速に進みつつあり、特にボローニャプロセスによる高等教育改革の動きが急なEU圏で、各大学がどのようにラーニング・コモンズを位置づけ、どのような方向の整備を進めようとしているかを明らかにする意義は大きい。そのため、本研究では諸外国のラーニング・コモンズをフィールド調査し、各国・各大学の取り組みを比較・分析することを研究の核としている。

2. 研究の進捗状況

- (1) 文献／WEB調査により、先導的な学

習支援サービスを展開している大学の取組について、国内外を対象に網羅的に情報を収集している。本研究では、学習支援サービスの1つとしてラーニング・コモンズを位置付けているので、インフォメーション・コモンズやその他関連する取組も含めた情報を収集している。

- (2) 上記の調査結果をふまえ、これまで下記の大学等を対象に訪問調査を実施した。
 - ①北米地域(アメリカ:ジョージア工科大学、エモリー大学、ノースカロライナ大学シャーロット校、ベルモント・アビー大学、テネシー大学ノックスビル校、ワシントン大学、南カリフォルニア大学、カリフォルニア大学アーバイン校、カリフォルニア州立大学サンマルコス校他、カナダ:ブリティッシュ・コロンビア大学、サイモンフレーザー大学)、
 - ②欧州地域(イギリス:グラスゴーカレドニア大学、シェフィールド大学他、ポルトガル:リスボン新大学、セトゥーバル・ポリテクニク、リスボンカトリック大学他)、
 - ③オセアニア地域(オーストラリア:オーストラリア国立大学、ビクトリア大学、ホルムズグレン・インスティテュート・オブ・テイフ他)、
 - ④アジア地域(香港:香港大学、シンガポール:シンガポール国立大学、ナンヤン工科大学他)を訪問調査した。

3. 現在までの達成度

- ②おおむね順調に進展している。

(理由)

本研究では、学生の主体的な学習を促進さ

せるラーニング・コモンズ関連で、先進的取組をおこなっている北米の事例だけでなく、欧州やアジア、オセアニア地域の高等教育機関における学習支援空間の事例を対象に、その現状を明らかにするとともに、多様性をも検討するという点において順調に研究は進展している。現在、この分野においてわが国で言及されているのは北米の事例がほとんどであるため、多様性を考える上で、その他の地域の調査を行う意義は大きい。

加えて、これまでの調査結果から、ラーニング・コモンズの活動を実質的に機能させるためには、学生チューターを含めた人的支援がきわめて重要であることを明らかにした点は、現在のわが国における学習支援空間に関する議論がハード中心に展開される傾向にあるなか、今後大いに貢献できると考えている。

一方、いずれの国においてもラーニング・コモンズにおける学習支援の取組は、緒についた段階であり、試行錯誤の状態にある。よって、必ずしも学習活動の実績を評価できる段階にはないことも明らかになった。言い換えるならば、ラーニング・コモンズにおける学生の学習活動実態の評価については、やや進展が遅れている。

4. 今後の研究の推進方策

(1) これまでの調査結果から、ラーニング・コモンズの活動を実質的に機能させるためには、学生チューターを含めた人的支援が不可欠であることが明らかになった。このスタッフの育成問題を今後の重要課題として位置づけて研究を進めていく予定である。

(2) いずれの国においてもラーニング・コモンズにおける学習支援の取組は、試行的段階にあることを踏まえ、ラーニング・コモンズにおける学生の学習活動の実態を把握し、それを評価する手法についても、分析を行っていきたい。

(3) 今後はこれらの点を踏まえて研究を継続するとともに、研究成果の公表にも力点をおきたいと考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

- ① 呑海沙織・溝上智恵子、北米の大学図書館における学習支援空間の歴史的変容：ブリティッシュ・コロンビア大学の事例から、カナダ教育研究、8、1-17、2010、査読有
- ② 逸村裕、大学図書館の課題、図書館界、61 (5)、362-371、2010、査読無
- ③ 永田治樹、インフォメーションコモンズ

ズ・ラーニングコモンズ：新たな学習環境(場)の提供、図書館雑誌、103 (11)、746-749、2009、査読無

- ④ 永田治樹、大学図書館における新しい「場」：インフォメーション・コモンズとラーニング・コモンズ、名古屋大学附属図書館研究年報、7、3-14、2009、査読無

[学会発表] (計 20 件)

- ① 山口恭平、松村敦、宇陀則彦、意見情報の時系列を考慮した議論可視化システム、電子情報通信学会、2011年3月14日、東京都市大学
- ② 呑海沙織・溝上智恵子、大学図書館のラーニング・コモンズにおける学生アシスタントの可能性、第52回日本図書館研究会研究大会、2011年2月19日、相愛大学
- ③ 重田桂誓、松村敦、宇陀則彦、情報の関係性に着目した文書作成支援システム、2010年度人工知能学会全国大会(第24回)、2010年6月11日、長崎ブリックホール
- ④ 呑海沙織・溝上智恵子、歳森敦、北米における学習空間の変容：ラーニング・コモンズを事例として、日本高等教育学会第13回大会2010年5月29日、関西国際大学
- ⑤ 逸村裕、今大学図書館に求められているもの、公立大学協会図書館協議会総会、基調講演、2009年9月4日、広島市立大学